

# 合併特例債

平成の大合併による新市町村建設計画の事業費として特例的に起債できる地方債（借入）事業費の95%に充てることができ、償還金（返済）に国からの地方交付税が算入される有利な財源です。久慈市ではさまざまな事業に合併特例債を使っており、平成28年度までに約54億8千万円を借り入れています。合併特例債が使われた主な事業を紹介します。

## 地域コミュニティ振興基金 9億5,000万円

個性豊かな地域づくりを推進するイベントなどへの補助金。北国の春全国大会や伝統文化継承に活用されています。



## 久慈小学校改築 4億610万円

老朽化した久慈小学校の改築事業。市内最大の児童数を誇る小学校で、現在も約640人の児童が登校しています。



## 学校給食センター改築 11億4,990万円

老朽化した久慈市学校給食センターを改築。久慈地区の小・中学校で食べられる給食を調理しています。



## 久慈駅前整備 3億2,670万円

第2期中心市街地活性化基本計画の核事業。現在久慈駅前広場を施工中で、今後駅前複合施設の工事を開始します。



## 下長内旭町線整備 6億8,380万円

下長内旭町線のうち田屋こ線橋を含む一部の道路を整備。生活路線として多くの人たちに利用されています。



## 久慈消防署山形分署改築 1億3,690万円

山形町の久慈消防署山形分署を改築。山形町の消防の拠点として、地域の安全確保や火災防止を担っています。



# 久慈市・山形村合併協議会

平成16年10月、久慈市長、山形村長、両市村議会議員などで構成された「久慈市・山形村合併協議会」が設置されました。合併の背景や当時の新市建設の基本的な考え方、合併協定の項目を振り返ります。

## 1 合併の背景

国から市町村へさまざまな権限を移す取り組みが進み、市町村の判断での行政運営が求められていました。

少子高齢化が進み、合併協議段階の国勢調査（平成12年）の数値では、久慈市の人口は36,796人、山形村は3,382人、昭和55年からの人口の増加率は久慈市が△5.7%、山形村が△27.6%と少子化が進行。また、老年人口割合も久慈市で19.46%、山形村が28.95%で高齢化が急速に進んでいました。

その中で、国は三位一体の改革による補助金や地方交付税の削減など、一層厳しい財政状況となる見通しが示されていました。

## 2 新市の基本方針

当地域は海・里・山と美しい景観に囲まれ、その恵みを受けそれぞれの地域が独自の歴史・固有の文化を育んできました。この中で築かれた地域コミュニティを大切にし、共有することで地域の誇りと魅力を再認識することが重要です。「ひと」と「ひと」とのふれあいや広域的な交流促進の重要度は増しており、さらに変化する時代の流れを見据え、行政主導ではなく、新たな視点に立った新しいまちづくりが必要となります。

新市の将来像に掲げるまちづくりの視点は「ひと」。次世代を担う子どもから高齢者まですべての人が、自分の住むふるさとに誇りを持つようなまちづくりを推進していきます。

## 3 新市の基幹事業

### ・夢ネット事業

光ケーブル網を利用して、福祉、教育、防災などさまざまな行政サービスの充実させるとともに、情報通信の利便性向上や情報格差の解消を目的とした事業。

### ・地域コミュニティ振興事業

地域の文化や資源を大切に、個性豊かな地域づくりを推進するイベントや伝承活動などに補助金を交付する事業。

## 4 合併協定項目の主な調整内容

・合併方式は、新設合併

・合併の期日は平成18年3月6日

・新市の名称は「久慈市」

・市役所の位置は、旧久慈市役所の位置。山形村役場に総合支所を置く

・議会議員は引き続き在任し、次の選挙では定数を26人とする

・使用料、手数料は2市村で差異のないもの現行のとおり、差異のあるものは適正な料金を設定

・補助金、交付金については、2市村で共通するものは統一し、独自のものは新市全域の均衡を保つように調整する

・市の「花・鳥・木・歌」については、新市で検討する（ツツジ・ウグイス・シラカバに制定）

・住民窓口事業は、本庁、総合支所で取り扱い、住民サービスの低下を招かないよう調整する

・母子保健事業は、久慈市の例により統合する

・指定文化財は新市に引き継ぐ

子どもたちに誇れる  
笑顔日本一のまち久慈

## 変わる時代の中で

合併に対する考え方は十人十色。市民のみならず一人一人、肯定的な意見、否定的な意見があると思います。

合併から12年が経過し、合併時に予想された少子高齢化

は現実となり、財政の状況は予想以上に悪化。東日本大震災や台風10号により、一層厳しい状態となっています。移り行く時代の中で、合併時に考えられた方針も、時代に合わせ変更していかなければなりません。

## 変わらない住民主体

今も昔も、まちづくりの主役は住民。行政主導ではなく、地域を活かし、コミュニティを大切にするという住民主体のまちづくりという考え方は変わりません。

## 力をひとつに

現在久慈市では「住みたい住み続けたい」と思う「子どもたちに誇れる笑顔日本一のまち久慈」を目指し、皆さん一人一人の声にしっかりと耳を傾け、着実に各種施策を推進しています。

変革の時代である今こそ、いま一度、合併を振り返り旧久慈市、旧山形村という枠組みを越えて、一つの久慈市として、さらに力を合わせることで飛躍につながります。